

事業名 在宅医療・介護連携推進事業

	課題と考えている内容	今までの取組や令和2年度の実施	本事業としての今後の予定や検討している内容	委員にご意見をいただきたい内容
1	住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、在宅医療等を支える医療・介護事業者の相互理解と連携の推進	<p>○多職種研修 令和元年度 「暮らしを支える各職種の役割と機能の理解」 講師 都島区在宅医療・介護連携相談支援室 錦織法子氏</p> <p>○多職種研修 平成30年度 「医療と介護の垣根を越える」 ～LEGO®を使って、職種・経験・役職を超えてコミュニケーションしよう！～ 講師 山田奈津美先生</p>	医療・介護従事者の相互理解を深め、連携を推進するための研修等を行う	<ul style="list-style-type: none"> ●医療・介護等の職種間のどこにどのような敷居があるか。 ●医療・介護の従事者が利用者に寄り添った支援を行うために、どのように連携をすればいいか。
2	住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、どのように区民の方への普及啓発を行うか	<p>○エンディングノート 「わたしのために、大切な人のために もしもの時に伝えたいこと」作成及び エンディングノートの普及啓発動画作成 令和2年度</p> <p>○区民講演会 令和元年度 「賢い患者になりましょう」～あなたが「いのちの主人公」～ 講師 認定NPO法人 ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口育子氏</p> <p>○区民講演会 平成30年度 「人生の最後をどう過ごしたいですか」 ～最期まで自分らしくいききるために～ 講師 白山宏人先生</p>	住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、エンディングノートの普及啓発等を行うこと	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が希望する医療やケアを受けるために、住民が主体的に考えたり、行動するようになるためにはどのように啓発をすすめていったらいいか。 ●在宅で最期を過ごしたいという方が多いが、現実的にはそうになっていない場合が多い。どうすればそれがかなえられるか。